

動 向 編

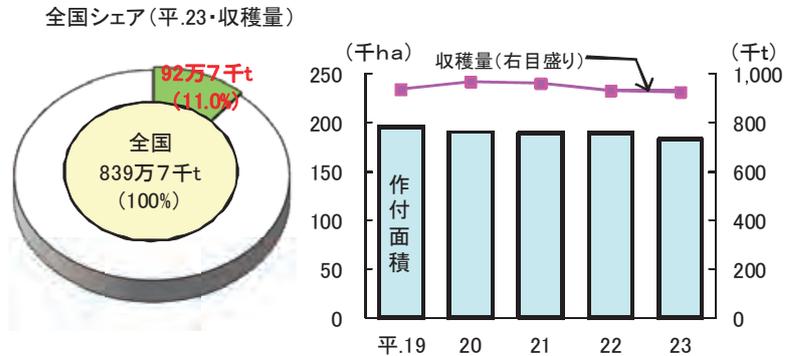
第1章 九州農業の主要指標の動き

1 主な農作物生産の動き

(1) 水稲

平成23年産水稲は、全もみ数がおおむね平年並みに確保され、登熟もおおむね順調に推移したことから、作況指数は100、収穫量は92万7千tとなりました。

図1-1 水稲収穫量等の動き

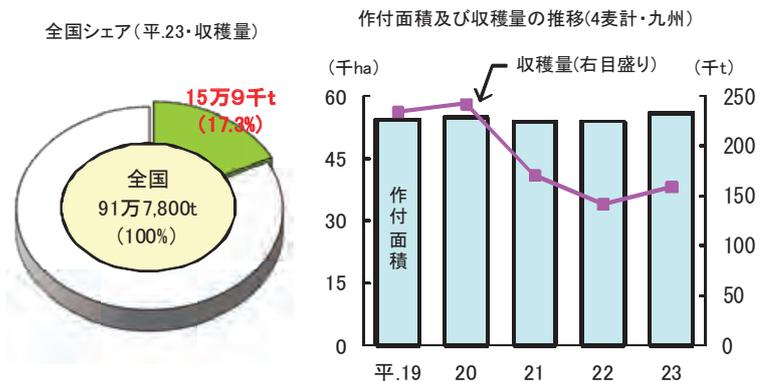


資料：農林水産省「作物統計」

(2) 麦類(4麦)

23年産4麦(小麦、二条大麦、六条大麦及びはだか麦)は、春先の低温や5月中下旬の降雨等の影響を受けたものの、収穫量は15万9千tで、作柄の悪かった前年産に比べて1万7,500t(12%)増加しました。

図1-2 麦類(4麦)作付面積等の動き

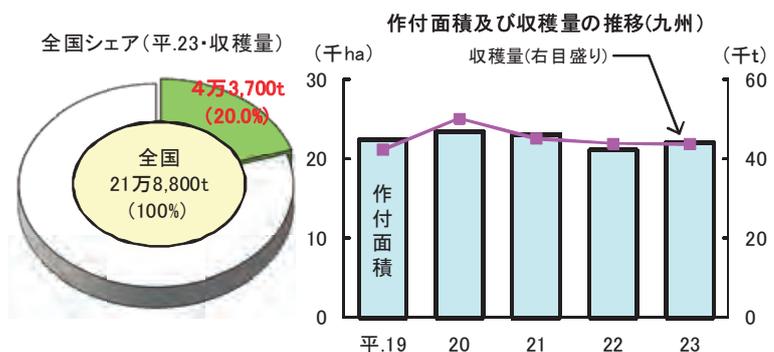


資料：農林水産省「作物統計」

(3) 大豆

23年産大豆は、作付面積が増加したものの、収穫量は4万3,700tで、前年産並みとなりました。

図1-3 大豆作付面積等の動き



資料：農林水産省「作物統計」

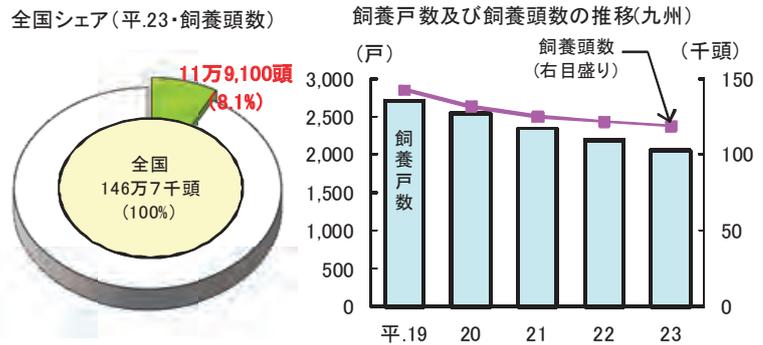
2 主な畜産の飼養頭数の動き（平成23年2月1日現在）

（1）乳用牛

飼養戸数は2,050戸で前年に比べ140戸（6%）減少しました。

飼養頭数は11万9,100頭で、飼養戸数の減少により前年に比べ2,700頭（2%）減少しました。

図1-4 乳用牛の飼養頭数等の動き



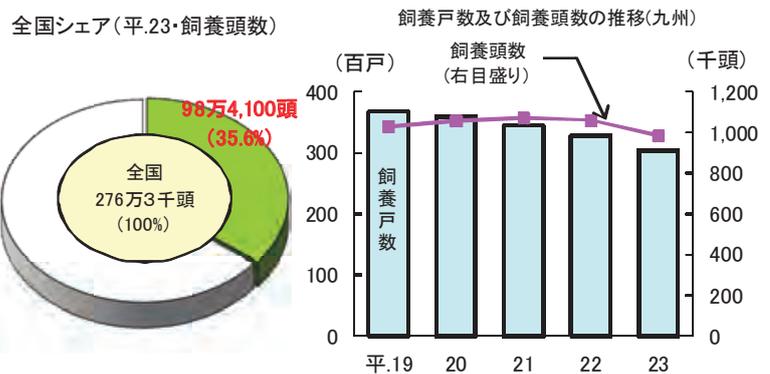
資料：農林水産省「畜産統計」

（2）肉用牛

飼養戸数は3万400戸で前年に比べ2,400戸（7%）減少しました。

飼養頭数は98万4,100頭で、宮崎県の口蹄疫発生の影響等により前年に比べ7万4,900頭（7%）減少しました。

図1-5 肉用牛の飼養頭数等の動き



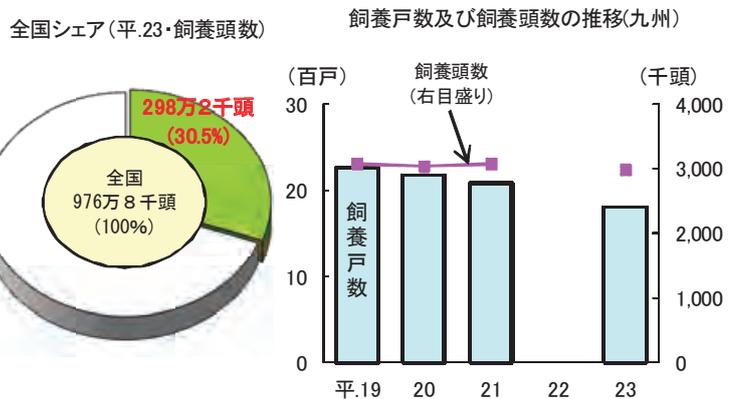
資料：農林水産省「畜産統計」

（3）豚

飼養戸数は1,810戸で前回（21年2月1日現在調査）に比べ280戸（13%）減少しました。

飼養頭数は298万2千頭で、宮崎県の口蹄疫発生の影響等により前回に比べ10万1千頭（3%）減少しました。

図1-6 豚の飼養頭数等の動き



資料：農林水産省「畜産統計」

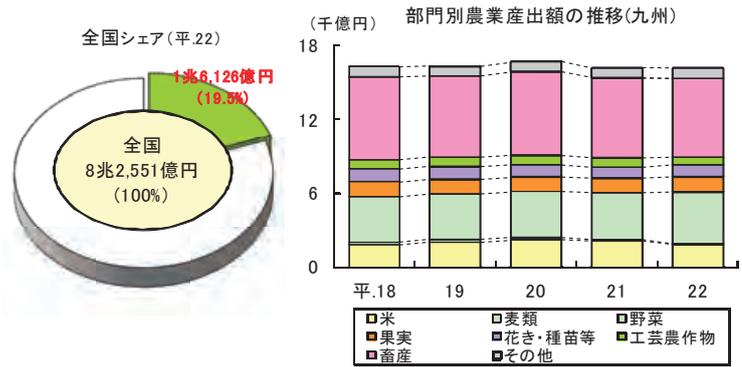
注：平成22年はセンサス年のため調査を実施していません。

3 農業産出額の動き

平成22年の農業産出額は1兆6,126億円で、米価格の低下や畜産物の生産量が減少したこと等により前年に比べ18億円減少しました。

また、県別にみても、福岡県2,168億円（全国15位）、佐賀県1,204億円（同26位）、長崎県1,399億円（同22位）、熊本県3,071億円（同5位）、大分県1,312億円（同23位）、宮崎県2,960億円（同7位）、鹿児島県4,011億円（同4位）となっています。

図1-7 農業産出額の動き



資料：農林水産省「生産農業所得統計」

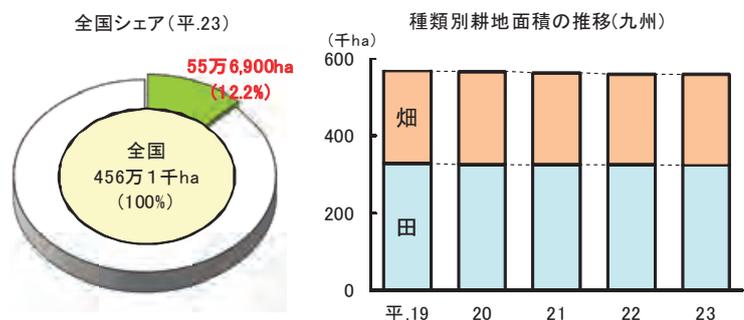
注) 平成19年から推計方法を見直したことによる中間生産物の取扱いの変更及び水田経営所得安定対策の導入による一部交付金の取扱いに変更があったため、過年次データとの比較には注意願います。

4 農地の動き

平成23年7月15日現在の耕地面積は55万6,900haで、前年に比べ2千ha減少しました。

種類別にみると、田が700ha、畑が1,200ha、それぞれ減少しています。

図1-8 耕地面積の動き

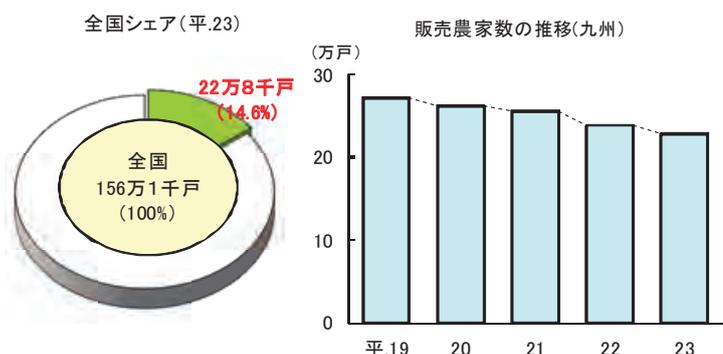


資料：農林水産省「耕地及び作付面積統計」

5 農家数の動き

平成23年2月1日現在の販売農家数は22万8千戸で、前年に比べ1万戸(4%)減少しました。

図1-9 農家数の動き



資料：農林水産省「農林業センサス」、「農業構造動態調査」